

*:

1 ポートエッセイ —「再び月へ」アルテミス計画—

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

*:

私がまだ子どもだった頃、アポロ11号が月面に着陸した。人類が初めて月へ到達した歴史的な偉業である。そして先月、アメリカ主導のアルテミス計画によって、人類は半世紀ぶりに月へ向かった。世界各地で悲惨な紛争の報道が続く中、胸が躍る話題だった。

1960年代、世界は米ソ冷戦のただ中にあり、宇宙開発は国家の威信をかけた競争の舞台だった。ソ連は世界初の有人宇宙飛行を成功させ、アメリカは有人月面着陸で応じた。やがて競争は終わったが、その過程で生まれた技術は通信、医療、素材開発など幅広い分野に応用され、私たちの暮らしにも大きな恩恵をもたらしている。

アルテミス計画が目指すのは、単なる月面到達ではない。有人月面着陸の継続や月面基地の建設を通じ、月での持続的な活動を実現することである。南極域に存在するとされる水の氷を調査し、燃料や生命維持資源として活用する構想は、月を中継拠点とした火星探査の実現性を高めている。

この計画には、日本も重要な役割を担う。2019年に参加を表明し、翌年にはNASAと文部科学省が月探査協力に関する共同宣言に署名した。日本はゲートウェイ居住棟への機器提供や補給、探査機による月面データの共有に加え、地上と同程度の気圧や温度を保つことができる有人月面探査車の開発を進めている。また、日本人宇宙飛行士の月面着陸も視野に入る。

アルテミス計画には、日本だけでなく各国の連携が欠かせない。これは単なる技術協力ではなく、宇宙探査における国際的な秩序づくりの試みでもある。現在の地球では、領土や資源、技術をめぐり争いが絶えない。しかし宇宙開発では、限られた資源を分かち合い、文化や価値観の違いを超えて意思決定し、透明性を保ちながら協力することが不可欠である。アポロ時代のような政治的対立ではなく、共通の利益を見据えた協調が求められている。

人類は再び月へ向かう。誰も独占できない広大な宇宙の開発において、人類が真に協調できるのが、今まさに問われている。

*:

2 トピック

*:

●外航クルーズ船「クリスタルシンフォニー」が酒田港に初寄港しました！

東北地方整備局 酒田港湾事務所

5月5日(火)に外航クルーズ船「クリスタルシンフォニー」が酒田港に初寄港し、一般開放された酒田港古湊ふ頭において、山形県主催で初寄港の歓迎式典が執り行われました。

式典では、酒田市長や当事務所所長より記念品の贈呈が行われ、地域の皆様のおもてなしの心が乗船の皆さんにも伝わっていたように感じられました。

5月24日(日)に「クリスタルシンフォニー」が再び酒田港に寄港します。ふ頭の一般開放も予定されておりますので、ぜひ見学にお越しください。



クリスタルシンフォニー



酒田市長から記念品贈呈



ミスポート酒田と記念撮影の様子



記念式典集合写真

●川崎港で「学べる」「遊べる」キャンプイベントを開催！！

川崎市港湾局誘致振興課

川崎市港湾局では、次世代を担う子どもたちが川崎港をより身近に感じ、親しみを持てるよう、初の宿泊型イベント「川崎港ファミリーキャンプ」を3月21日(土)、22日(日)に開催しました。コンセプトが異なる2つのイベントを別会場で実施することで、産業の一大集積地である川崎港の「災害に備える港」「遊べる港」といった多様な姿を体験していただきました。

学べるキャンプでは、基幹的広域防災拠点である東扇島東公園で、防災をテーマに特別な宿泊体験を実施し、防災センターの見学をはじめ、火起こしや防災食作りなど、災害時に役立つ知識や技術を楽しく学びました。

遊べるキャンプでは、焚火が解禁された川崎マリエンキャンプ場で、本格BBQやドラム缶を使ったピザ焼きを行い、火と食を満喫する王道キャンプを実施しました。

「楽しく体験することで被災に関する不安が軽減された」「自宅近くで非日常体験ができ川崎港のイメージが変わった」とどちらも大好評で、川崎港の様々な面を伝えることができました。今後も関係団体と連携し、川崎港の魅力を伝える取組を進めていきます。



思い思いの時間を過ごす参加者



普段の様子とは違う公園

●金沢港戸水岸壁でのクルーズ船受入が再開しました！

～令和6年能登半島地震からの復旧～

北陸地方整備局 金沢港湾・空港整備事務所

令和6年能登半島地震で被災した金沢港では、現在、係留施設などの本格復旧工事を実施しています。その中で戸水岸壁においては、令和6年12月より現地着手し、復旧工事の進捗により一部区間を除き利用が可能となったことから、クルーズ船受入が再開されました。

戸水埠頭は、令和7年3月に改訂された港湾計画において、クルーズ船需要の増大に対応するため、旅客船埠頭に位置付けられ、令和8年3月21日（土）に、港湾計画改訂後初となる二つの岸壁を利用した受入を行い、戸水岸壁には「アザマラ・パシュート（3万トシ級）」、無量寺岸壁には「シルバー・ノヴァ（5.5万トシ級）」が接岸し、金沢港の未来への一歩を踏み出しました。

金沢港に寄港するクルーズ船は、国際クルーズ船の受入が再開したコロナ禍以降、順調に回復し、令和8年は過去最大である平成29年度の55本を抜いて65本のクルーズが予定されており、戸水岸壁の復旧により、受入環境が整い更なる復興に向け、地域活性化が期待されます。



戸水岸壁
(アザマラ・パシュート)

無量寺岸壁
(シルバー・ノヴァ)

写真提供(一社)金沢港振興協会

2隻同時接岸するクルーズ船



お見送りの状況

●唯一の欧州直航便が神戸港に初入港しました！

近畿地方整備局 港湾空港部

令和8年4月2日(木)、フランスの大手海運会社CMA CGM社が運航する新規欧州航路サービスの第1船「CMA CGM TOSCA(全長:334.07m、最大積載数:8,238TEU)」が神戸港ポートアイランドPC-18岸壁に初入港。同船内にて近畿地方整備局の石原副局長や神戸市の山本港湾局長ら港湾関係者、CMA CGMジャパンの内田代表取締役ら同社関係者が出席のもと、初入港歓迎セレモニーが開催されました。

4月以降、邦船大手のONEによる欧州直航コンテナ航路が廃止され、今回就航した欧州航路が唯一の直航サービスとなることから、日本と欧州を結ぶ新たな選択肢として期待が高まっています。

<航路概要>

航路名 : Ocean Rise Express (OCR)

運航船社 : CMA CGM

投入隻数 : 14隻 (7,000~10,000TEU)

寄港地 : 神戸-名古屋-横浜-厦門-塩田-
ロッテルダム-ハンブルク-
サウザンプトン-南沙-神戸

輸送日数 : 神戸~ロッテルダム 42日

名古屋~ロッテルダム 41日

横浜~ロッテルダム 38日

※船社発表等による



「CMA CGM TOSCA」 神戸港PC-18初入港



歓迎セレモニー 記念撮影の様子

●新田高校JRC部を対象とした「松山港見学会」を行いました！

四国地方整備局 松山港湾・空港整備事務所

令和8年3月24日(火)、新田高校JRC(Junior Red Cross)部※を対象とした、「松山港見学会」を開催しました！（※青少年赤十字の活動や校内外の活動を通して社会との関わりを深め、互いに支えあう大切さや他者に貢献する大切さを学ぶ部活動。）

今回は、海洋環境問題への関心を深めていただくため、海洋ごみ問題や海洋環境整備船「いしづち」の紹介を行いました。さらに、港湾業務艇「くるしま」に乗船し、実際の海を見ていただくことで、海洋ごみ問題をより身近に感じていただきました。



船内で海洋環境整備事業について説明



くるしまへ乗船



松山空港沖を眺める生徒



松山港コンテナターミナルを海上から見学

●「川内港唐浜地区国際物流ターミナル供用式」を開催

九州地方整備局 鹿児島港湾・空港整備事務所

令和8年4月25日(土)、九州地方整備局鹿児島港湾・空港整備事務所及び鹿児島県の共催により「川内港唐浜地区国際物流ターミナル供用式」を開催しました。

本事業は、国で岸壁(水深12m)(耐震強化岸壁)、泊地(水深12m)、航路・泊地(水深12m)を整備し、鹿児島県にて埠頭用地、荷役機械を整備するもので、船舶の大型化に伴う輸送効率化が図られるとともに、耐震強化岸壁の整備により被災時の緊急物資輸送にも対応可能となります。

今回、岸壁(水深12m)(耐震強化岸壁)及び泊地や航路・泊地の水深9mでの暫定供用となりますが、暫定供用を行うことで早期の効果発現を図るものです。

供用式では、塩田鹿児島県知事の式辞、安部国土交通省港湾局長の挨拶に続き、森山衆議院議員、小里衆議院議員、田中薩摩川内市長、日高鹿児島県議会議長より祝辞が述べられました。

また、薩摩川内おどり太鼓の演奏、川内港の見学をしたことのある地元の子供たちの参加、テープカットのセレモニーなど、供用開始を盛大に祝いました。



〈式辞〉塩田鹿児島県知事



〈祝辞〉森山衆議院議員



〈祝辞〉小里衆議院議員



〈祝辞〉田中薩摩川内市長



テープカットの様子

